

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.57, February 2005

---

---

ARSC 事務局：〒162-0485 東京都新宿区市ヶ谷本村町 2-9  
（財）計量計画研究所  
応用地域学会事務局 文部省学会コード = 10023  
会長：井原健雄、 担当：宮本成雄  
TEL: (03)3268-9692  
FAX: (03)3268-9919  
E-mail: clerk@arsc.org

---

---

主要項目： 第 18 回研究発表大会報告  
2004 年度坂下賞  
2005・2006 年度副会長の選挙について  
第 19 回研究発表大会のご案内  
会員の入退会について  
2005 年度会費納入のお願い  
総会報告  
事務局だより

---

---

## 1. 第 18 回研究発表大会報告

大会委員長：井原健雄（北九州市立大学）

応用地域学会（ARSC）の第 18 回研究発表大会は、2004 年 12 月 11 日（土）と 12 日（日）の両日、北九州国際会議場で開催された。北九州の地で ARSC の大会が開催されたのは今回がはじめてということで至らぬ点も多々あったかと案ずるが、それにも拘わらず、国内外から 200 名を超える熱心な参加者を迎え、終始、活発な報告と討論等が行われたことに対して感謝の念を表明したい。

今回のプログラム（委員長：愛媛大学の柏谷増男氏）は、これまでと同様に、Early Bird Session、一般セッション、シンクタンク・セッションの 3 区分に従って構成されたが、このうち Early Bird Session では、さらに 4 つに分かれて新進気鋭の若手研究者による 12 編の研究報告があった。また、一般セッションでは、空間経済、新経済地理学、産業集積、公共事業、社会資本、地方財政、住宅、交通といった 21 の多彩なテーマが用意され、合計 43 編の研究論文が発表された。さらに、シンクタンク・セッションでは、今回、北九州の地で

開催されることに鑑み、2つのテーマが設定された。その1つは「都市の魅力と政策課題 北九州市の取り組みを踏まえて」であり、他の1つは「アジア国際産業連関表の作成と利用 地域科学のツールとして」であった。このうち、前者については、IBSの宮本成雄氏の座長のもとで、北九州市企画政策室長の片山憲一氏、北九州市立大学大学院の谷村秀彦氏、北九州都市協会の内田晃氏からそれぞれ問題提起をして頂いた。また、後者については、北九州市立大学大学院の井原健雄を座長として、アジア経済研究所の岡本信広氏、中村純・猪俣哲史氏、黒岩郁雄氏からそれぞれこれまでの貴重な研究成果の報告があった。

また、本大会の総会時には、坂下賞選考委員会（委員長：東北大学の佐々木公明氏）による選考結果が披露され、その結果に基づき、2004年度「坂下賞」(Sakashita Prize)が京都大学の森知也氏に授与され表彰された。ちなみに、本選考規程によれば、「坂下賞」の受賞対象は「地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか(あるいは複数の領域)で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていること」となっているので、森知也氏に続く会員各位の今後の更なる研究活動を期待したい。

さらに、本大会での特記事項として、有力メンバーを含む新入会員が35名も入会されたことに加えてまた、国際東アジア研究センター(ICSEAD)の山下彰一氏の提唱により、国際開発学会との連携を図ったこと等が指摘される。最後に、本大会の運営に当たり、北九州市をはじめ、北九州市立大学、ICSEAD等のご支援とご協力等があったことに対して、記して謝意を表明したい。

## **2 . 2004 年度坂下賞 (Sakashita Prize)**

坂下賞選考委員会 委員長 佐々木公明(東北大学)

2004年度の坂下賞については、選考委員会の慎重なる議論を経、以下のように、京都大学経済研究所助教授森知也氏に決定しました。

### **2004 年度坂下賞**

**受賞者；森 知也 京都大学経済研究所助教授**

#### **受賞理由**

森知也氏はペンシルバニア大学地域科学部博士課程での学生時代および日本への帰国後を通じて、いわゆる New Economic Geography (NEG)のフロンティア開拓において、共同研究および独自の研究を行うことにより、世界的に認められる研究成果を継続的にあげてきた。これらの研究成果の一部は、すでに7編の論文として世界的に評価の高いレフリー付英文ジャーナルに、また、3編の招待論文として英文学術専門書に掲載されている。さらに、それらの論文は世界中のNEGの研究者によって頻繁に引用されてきている。特に、都市システムの形成と発展に関する2編の論文は、経済学の各分野における過去半世紀の代表的な論文を集めた、The International Library of Critical Writings in Economic Series (Edward Elgar Publishing,2005)における Spatial Economics の巻に含まれることが決定

している。

それらすでに発表された論文の多くは理論研究であるが、最近では森氏は NEG や空間経済についての実証研究も平行して進めてきており、研究成果の一部はすでに 2 編の Discussion Paper として発表されている。

以上のように、森知也氏は応用地域学会が世界に誇りうる業績をあげてきた若手の研究者であり、将来における更なる活躍が期待できる。よって、森知也氏が坂下賞の受賞者として相応しいと判断された。

坂下賞表彰式は、応用地域学会総会終了後に行われ、森知也氏には、井原会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

### 3. 2005・2006 年度副会長選挙について

---

選挙管理委員 矢澤則彦（東京国際大学）  
佐藤徹治（（財）計量計画研究所）

応用地域学会会則第 7 条により、現会長井原健雄教授（北九州市立大学）の任期が 2005 年 3 月 31 日で満了となり、引き続き、現副会長柏谷増男教授（愛媛大学）が会長に就任されます。それに伴いまして、次期副会長の選出を、会則第 7 条および応用地域学会選挙内規 基づき実施いたします。運営委員による無記名 2 名連記の投票の結果、次の 3 名の方が次期副会長候補者に決定いたしました（アルファベット順、敬称略）。

小林潔司（京都大学）

岡部篤行（東京大学）

田淵隆俊（東京大学）

よって、下記の要領で副会長選挙を行います。

会則第 7 条および選挙内規 では、全会員の無記名单記の投票を定めております。同封のはがきには、上記候補者の氏名があらかじめ印刷されています。次期副会長に適任であると思われる方一名に、を付してご投函ください。なお、投票の締切は 3 月 22 日必着とさせていただきます。会則 7 条は、副会長の次期会長への自動昇任を規定しております。今回選出される副会長の任期は 2005 年 4 月～2007 年 3 月となり、会長としての任期は 2007 年 4 月～2009 年 3 月となります。

### 4. 第 19 回研究発表大会のご案内

---

2005 年度の ARSC 研究発表大会は、明海大学・前川俊一教授を実行委員長として、下記の要領にて実施されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日程：2005年11月末又は12月初の土日を予定（調整中）

会場：明海大学(千葉県浦安市)（予定）

発表申込み〆切：2005年8月末（予定）

論文提出〆切：2005年10月末（予定）

申込み・問合せ：ARSC事務局

（発表申込先および受付開始時期を含む詳細については、ARSC NEWS 次号に掲載いたします。）

## 5. 会員の入退会について

---

2004年度総会（2004年12月11日）において、前回総会以降に入会を申し込まれた以下の方々について、入会が承認されました（順不同・敬称略）。

### 入会

#### 一般 17名

山越伸浩(参議院国土交通委員会調査室)、永井輝一(三井不動産株式会社)、円山琢也(東京大学大学院)、中村勝之(桃山学院大学)、水谷 淳(大阪商業大学)、森田大樹(三井情報開発株式会社)、丸山直樹(財団法人都市経済研究所)、石倉智樹(国土交通省国土技術政策総合研究所)、伊藤 毅(石川島播磨重工業(株))、奥山恭英(Regional Research Institute, West Virginia University)、吉村 弘(山口大学)、横田一彦((財)国際東アジア研究センター)、武藤祥郎(国土交通省道路局)、福井康子((株)都市 < 氷3e ハHク、

小林慎太郎(京都大学大学院)、松浦義満(まつうら経済分析室)、中村英夫(武蔵工業大学)、海野 進(富山県)、賈 輝(中国瀋陽通大信息技术有限公司)、瀬田史彦(東京大学)、黒田 誼(筑波大学)、前仲清浩((財)南西地域産業活性化センター)、高橋勝美((財)計量計画研究所)、柳井雅也(富山大学)、陶 大寧(立命館大学大学院)、小川英明(愛知産業大学)、池田三郎(筑波大学)、Gibson, Lay James、五十嵐政洋(国際連合貿易開発会議)、原田信行((社)日本経済研究センター)、Sehat Saied (東北大学大学院)、中央復建コンサルタンツ(株)東京支社、(財)日本不動産研究所

この結果、2005年1月31日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 374 名、学生会員 66 名、海外会員 14 名、賛助会員 13 団体(計 22 口)となります。

## 6. 2005年度会費納入のお願い

---

会員データベースに基づいて発行された請求書を同封しています。ご請求額を3月22日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の所定欄に振込金額の明細を必ずご記入下さい。

### (1) ARSC 会費

2005年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC 年報を購読される場合\$80、RURDS のみの場合\$60 です。なお、海外からお支払いの場合は、日本国内の知人を經由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、アメリカの銀行で振り出された US ドル建ての小切手、アメリカの銀行に口座をお持ちでない方は、国際郵便為替をご利用下さるようお願いいたします。

過年度未払いの会費がある場合、1998 年度以前は年額 7,000 円(学生は 5,000 円)、1999 年度以降は年額 10,000 円(学生は 5,000 円)を加算して請求しています。海外会員についても同様です。

### (2) RSAI (国際地域学会) 会費

2004 年分の RSAI 会費を ARSC 経由で納入された方、および新たに RSAI 会員になられる旨事務局に申し出られた方についてご請求しています。2005 年分の会費は 7,800 円(学生は 5,400 円)です。

従来から RSAI 会費を支払っておられて、期日までに払込がなかった方についても3月22日までに退会のお申し出がない場合には、RSAI 会員を継続されるものと見なして、事務局で会費を立て替え支払います。従って、その後に退会を申し出られた場合には、2003 年分の会費はお支払いいただくこととなりますので、予めご承知下さい。

今回新たに RSAI 会員になることを希望される方は、払い込み票の所定欄にその旨ご記入し、上記金額を加算していただくようお願いいたします。

### **(3) RSAI 会員特典としての雑誌購読**

2005 年より RSAI 事務局が変わりまして、雑誌購読等についての詳細が確認できておりませんので、しばらくお待ちください。

## **7 . 総会報告**

---

2004 年度の総会は、12 月 11 日北九州国際会議場会議室において行われました。

### **議題と主な報告、議論等；**

#### 1 ) 学会活動報告及び活動方針

井原会長より、2004 年度の活動方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

#### 2 ) 会員異動報告 ( 前掲 )

#### 3 ) 2003 年度決算 ( 別掲 )

#### 4 ) 2005 年度予算 ( 別掲 )

#### 5 ) 応用地域学会 2004 年度坂下賞

坂下賞選考委員会委員長佐々木公明先生(東北大学)より、2004 年度の坂下賞についての選考経緯と坂下賞選考規程についての説明がなされました。

受賞者には、次年度の研究発表大会において特別講演をしてもらうこと(選考規程にあり)、並びに、ジャーナルの招待論文にも入れることなどの報告と議論がありました。

(授賞者 前掲、 坂下賞選考規程および 2004 年度選考委員 別掲)

#### 6 ) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

##### 応用地域学研究

黒田編集委員長より、応用地域学研究 NO.9 ( 2 ) の刊行準備が鋭意進められている旨と、この刊行をもって、編集委員長は、岡山大学中村良平先生に交代する旨の報告がありました。

なお、当面の間、応用地域学研究への投稿は、今までどおり、黒田先生あてにお願いしますとのことです。

##### RURDS

土井編集委員長より、RURDS 刊行に関しての科研費の増額があったことの報告と、RURDS がインターネットで閲覧できるようになって、それへのアクセスが、極めて多くなっているとの報告がありました。

#### 7 ) 2005 年度研究発表大会の開催について

( 前掲 )

## 8. 事務局だより

---

第 18 回 ARSC 研究発表大会は、北九州市の北九州国際会議場で開催され、大変な活況を提しておりました。ARSC 会長であるとともに、自ら今大会の委員長を勤められた井原健雄先生の大変なご尽力をはじめ、北九州市市立大学の皆様、プログラム委員長を勤められた柏谷先生とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました北九州市や国際東アジア研究センターの皆様に、深く感謝申し上げます。**副会長の選挙**です。2007 年度からの会長にご就任いただく方の選出、大切な選挙です。年度末を控え、そして新年度への準備と、何かとご多忙の折かと思いますが、お忘れなきようお願い申し上げます。

地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。個人会員用の入会申込書は ARSC のホームページ(<http://www.arsc.org/arscform-j.html>)より入手可能です。また、Email によるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項を ARSC ホームページにてご確認の上、必要事項を記入して [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org) 宛てに Email でお申し込み下さい。

( ARSC 事務局 宮本成雄 )

## 2003年度決算書

応用地域学会2003年度決算書（2004年3月31日）

収入の部	2003年度予算		2003年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,953,685	0.00	7,953,685	0.00
2.個人会費収入	4,125,000	2,100.00	3,454,206	0.00
3. RSAI会費	975,000	0.00	673,680	0.00
4.賛助会費収入	1,250,000	0.00	1,200,000	0.00
5.補助金(科学研究費補助)	1,300,000	0.00	1,300,000	0.00
6.大会参加費収入	400,000	0.00	1,035,400	0.00
7.大会開催寄付金	0	0.00	0	0.00
8.利子収入	0	0.00	40	0.00
9.雑誌販売(Back Number)	0	0.00	224,257	0.00
10.その他	0	0.00	0	0.00
収入合計	16,003,685	2,100.00	15,841,268	0.00
(繰越金を除く収入合計)	8,050,000	2,100.00	7,887,583	0.00

支出の部	2003年度予算		2003年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. RURDS刊行費	4,246,000	0.00	3,944,000	0.00
(編集印刷経費)	1,300,000	0.00	1,300,000	0.00
(刊行・発送費)	2,946,000	0.00	2,644,000	0.00
2.年報刊行費	750,000	0.00	835,065	0.00
3.大会開催費	650,000	0.00	1,285,400	0.00
(大会参加費)	400,000	0.00	1,035,400	0.00
(大会開催寄付金)	0	0.00	0	0.00
(大会開催補助:大学)	0	0.00	0	0.00
(大会開催補助:ARSC)	250,000	0.00	250,000	0.00
4. RSAIへの送金	975,000	0.00	737,346	0.00
5.名簿印刷費	300,000	0.00	150,150	0.00
6.ニュースレター等印刷費	200,000	0.00	189,235	0.00
7.一般事務費	210,000	0.00	304,312	0.00
(郵送費)	150,000	0.00	267,500	0.00
(消耗品等)	10,000	0.00	8,397	0.00
(謝金等)	0	0.00	0	0.00
(銀行手数料)	50,000	0.00	28,415	0.00
8.事務局費	500,000	0.00	500,000	0.00
9.予備費	200,000	0.00	0	0.00
支出合計	8,031,000	0.00	7,945,508	0.00
繰越金	7,972,685	2,100.00	7,895,760	0.00
ドル貨円換算(手数料を除く)	169,500			
繰越金合計	8,142,185		7,895,760	

注:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2004年10月26日 監査委員 木立 力 

2004年10月28日 監査委員 梶川 義実 

## 2005年度予算書

応用地域学会2004年度・2005年度予算書

収入の部	2003年度決算		2004年度予算		2005年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,953,685	0.00	7,895,760	0.00	8,120,260	0.00
2.個人会費収入	3,454,206	0.00	4,275,000	2,100.00	4,275,000	1,800.00
3. RSAI会費	673,680	0.00	849,600	0.00	778,800	0.00
4.賛助会費収入	1,200,000	0.00	1,250,000	0.00	1,250,000	0.00
5.補助金(科学研究費補助)	1,300,000	0.00	1,300,000	0.00	1,500,000	0.00
6.大会参加費収入	1,035,400	0.00	400,000	0.00	540,000	0.00
7.大会開催寄付金	0	0.00	0	0.00	0	0.00
8.利子収入	40	0.00	0	0.00	0	0.00
9.雑誌販売(Back Number)	224,257	0.00	0	0.00	0	0.00
10.その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
収入合計	15,841,268	0.00	15,970,360	2,100.00	16,464,060	1,800.00
(繰越金を除く収入合計)	7,887,583	0.00	8,074,600	2,100.00	8,343,800	

支出の部	2003年度決算		2004年度予算		2005年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行費	3,944,000	0.00	4,360,000	0.00	4,560,000	0.00
(編集印刷経費)	1,300,000	0.00	1,300,000	0.00	1,500,000	0.00
(刊行・発送費)	2,644,000	0.00	3,060,000	0.00	3,060,000	0.00
2.年報刊行費	835,065	0.00	1,000,000	0.00	1,000,000	0.00
3.大会開催費	1,285,400	0.00	650,000	0.00	650,000	0.00
4. RSAIへの送金	737,346	0.00	849,600	0.00	778,800	0.00
5.坂下賞					121,000	0.00
6.名簿印刷費	150,150	0.00	50,000	0.00	170,000	0.00
7. ニュースレター等印刷費	189,235	0.00	200,000	0.00	200,000	0.00
8.一般事務費	304,312	0.00	210,000	0.00	310,000	0.00
(郵送費)	267,500	0.00	150,000	0.00	250,000	0.00
(消耗品等)	8,397	0.00	10,000	0.00	10,000	0.00
(謝金等)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
(銀行手数料)	28,415	0.00	50,000	0.00	50,000	0.00
9.事務局費	500,000	0.00	500,000	0.00	500,000	0.00
10.予備費	0	0.00	200,000	0.00	50,000	0.00
支出合計	7,945,508	0.00	8,019,600	0.00	8,339,800	0.00
繰越金	7,895,760	0.00	7,950,760	2,100.00	8,124,260	1,800.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			169,500		123,000	
繰越金合計	7,895,760		8,120,260		8,247,260	

注:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。

## 応用地域学会坂下賞（Sakashita Prize）選考規程

### **【目的】**

第1条：日本における地域科学の研究を発展させ、応用地域学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、若い研究者を奨励することを目的とする。

### **【受賞対象】**

第2条：地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか（あるいは複数の領域）で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていること。

### **【受賞者資格】**

第3条：応用地域学会の会員であり、受賞時に満40歳以下であること。

### **【受賞者数】**

第4条：原則として各年度1人とする。

### **【選考委員会】**

第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

### **【選考委員の任期】**

第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

### **【受賞者の決定】**

第7条：選考委員会は受賞者を決定し、その選考結果を運営委員会に報告し、了承を得るものとする。

### **【受賞者の表彰】**

第8条：受賞者はその年度の研究発表大会で表彰され、原則として次年度の研究発表大会において特別講演を行うものとする。

### **【附則1】**

この規程は、2004年12月11日から施行。

### **【附則2】**

選考委員の任期について、2004年から2007年の間は、別途申し合わせ事項によるものとする。

## 2004年から2007年の間の選考委員の任期についての申し合わせ

2004年の運営委員会で3名（藤田昌久氏、佐々木公明氏、金本良嗣氏）の選考委員が選ばれた。第6条に定めた、委員任期3年、1年にひとりずつ新任および退任の規則に合致させること、に整合させるために、

2005年は、上記3名が継続、

2006年は、藤田昌久氏が退任して、2006年度運営委員会選出委員が新任、

2007年は、金本良嗣氏が退任して、2007年度運営委員会選出委員が新任、

2008年は、佐々木公明氏が退任して、2008年運営委員会選出委員が新任する。

## 2004年度坂下賞選考委員会

委員長	佐々木公明	(東北大学)
委員	藤田 昌久	(京都大学)
委員	金本 良嗣	(東京大学)
委員	井原 健雄	(北九州市立大学 ARSC 会長)
委員	柏谷 増男	(愛媛大学 ARSC 副会長)